

# 環境報告書の作るポイント・読むポイント

～化学物質のリスクコミュニケーションを進めるために～

| 作るポイント   | 読むポイント   |
|--|--|
| <b>なぜ化学物質が排出されるか</b>   |  |
| <input type="checkbox"/> 物質の用途<br><input type="checkbox"/> 使用する工程<br><input type="checkbox"/> 排出する工程   | <input type="checkbox"/> 物質のメリット、必要不可欠であるかどうかを理解できる<br><input type="checkbox"/> 排出される理由が理解できる  |
| <b>環境リスク<sup>*注1</sup>低減への取組</b>   |  |
| <input type="checkbox"/> 化学物質管理の体制、規定、仕組み(ISO14001等)<br><input type="checkbox"/> (削減)目標 <sup>*注2</sup> の設定、その内容<br><input type="checkbox"/> 対策(環境への影響の低い物質への代替、回収装置の導入、処理装置の強化、燃焼処理など)<br><input type="checkbox"/> 取組の成果(排出量の減少、目標の達成状況、環境中濃度の低減など)<br><input type="checkbox"/> 事故・緊急時の訓練  | <input type="checkbox"/> 化学物質管理の体制、規定、仕組み(ISO14001等)が整備されている<br><input type="checkbox"/> 目標が妥当である<br><input type="checkbox"/> 目標が達成できている<br><input type="checkbox"/> 成果がわかる(排出量の削減、環境中濃度の低下など)<br><input type="checkbox"/> 代替物質や代替プロセスによる環境影響にも配慮している            |
| <b>コミュニケーション</b>   |  |
| <input type="checkbox"/> サイトレポートの発行<br><input type="checkbox"/> 環境報告書の地域等での活用<br><input type="checkbox"/> 印刷物としての環境情報の提供<br><input type="checkbox"/> ホームページからの環境情報の提供<br><input type="checkbox"/> 環境に関する対話、工場見学<br><input type="checkbox"/> 環境・健康に関する問合せ窓口の連絡先   | <input type="checkbox"/> サイトレポートを作っているか<br><input type="checkbox"/> 印刷物、ホームページなどで積極的に情報発信している。<br><input type="checkbox"/> 地域住民、学校、行政、消費者などと積極的にコミュニケーションをとっている。<br><input type="checkbox"/> 環境・健康に関する問合せ窓口の連絡先が明記されている<br><input type="checkbox"/> 質問者へ直接回答している |
| <b>企業の姿勢</b>   |  |
| <input type="checkbox"/> 事業活動による環境への影響に対する認識<br><input type="checkbox"/> 環境報告書の社内での活用<br><input type="checkbox"/> 環境保全の取組と成果に対する自己評価<br><input type="checkbox"/> 地域住民や消費者等の声を経営等へどのようにフィードバックしたかという状況  | <input type="checkbox"/> 企業トップから現場担当者まで、企業自身の環境保全に対して、真摯な態度で対応している<br><input type="checkbox"/> 環境対策の取組が経営の重点課題として捉えられている<br><input type="checkbox"/> 地域住民や消費者等の声を経営へ反映している   |
| <b>ネガティブ情報の公表</b>  |  |
| <input type="checkbox"/> ネガティブ情報(法令違反・事故・自主目標未達成など)の公表と原因・対策の明記  | <input type="checkbox"/> ネガティブ情報がきちんと公表されている   |
| <b>その他</b>   |  |
| <b>化学物質管理について</b><br><input type="checkbox"/> グリーン調達など関連企業を含めた化学物質管理の取組<br><input type="checkbox"/> 化学物質管理に関する従業員への教育<br><input type="checkbox"/> 取組の成果は、同業他社と比較してどうか<br><br><b>環境報告書の記載について</b><br><input type="checkbox"/> 化学物質の有害性などを知る手がかりを示しているとよい。例えば<br>・環境省：化学物質ファクトシート <a href="http://www.env.go.jp/chemi/communication/factsheet.html">http://www.env.go.jp/chemi/communication/factsheet.html</a><br>・(独)製品評価技術基盤機構：大気中の濃度マップ <a href="http://www2.wagamachi-guide.com/nite/">http://www2.wagamachi-guide.com/nite/</a><br><br>・かながわ環境科学センター：かながわPRTR情報室 <a href="http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/prtr/">http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/prtr/</a><br><input type="checkbox"/> 化学物質の排出及び取組に関する情報量が十分であるか<br><input type="checkbox"/> わかりやすく記載されているか。例えば、用語や単位がわかりやすい。数値で経年の情報を明確に示している。グラフや写真を多用している。<br><input type="checkbox"/> 記載されている情報の信頼性の確保はどのように行われているか。例えば、監査法人によるレビューを得ている。第三者との共同製作による。 |  |

\*注1 環境リスクとは、人の活動によって生じた環境汚染により、人の健康や生態系に影響を及ぼす可能性を意味します。化学物質の環境リスクの大きさは、「化学物質の有害性の程度」と「化学物質に暴露した量」によって決まります。

\*注2 例：絶対量、削減率、原単位、取扱量・排出量の比、化学物質の有用性・排出量の関係など

## 環境報告書の原則

(環境報告書ガイドライン(2003年度版)環境省作成より)

### 目的適合性

環境報告書は、事業者の事業活動に伴う環境負荷の状況及び事業活動における環境配慮の取組状況に関して、利害関係者の判断に資する有用な情報を、適切なタイミングで提供することが望まれます。

### 信頼性

環境報告書は、信頼できる情報を提供しなければなりません。

### 理解容易性

環境報告書は、利害関係者の誤解を招かないように、必要な情報を理解容易な表現で明瞭に提供することが望まれます。

### 比較容易性

環境報告書の記載事項は、事業活動の各期間を通じて比較可能であり、かつ異なる事業者間を通じても一定の範囲で比較の基礎となる情報を提供することが望まれます。

### 検証可能性

環境報告書は、記載された情報について、前提条件と根拠が明らかにされ、客観的立場から検証可能なことが望まれます。